



常磐東小学校 校長だより

# 常磐緑

令和五年十一月二十二日 第八号



→「今年も常磐東小の校庭のイチヨウの木とアメリカフウが紅葉してきれいだよね。」  
(学習発表会 中学年のせりふより)

## 陽を浴びて数多に染まる紅葉一片

十月末の学習発表会では、本校の目指す東っ子「ひ・が・し」の④「頑張ることをいとわず、追究し続ける子」の姿を、ご参会の皆様に見ることができた。

体育館に響く低学年の劇の一人一人の声の大きさに、意思の強さを感じた。生き生きとした演技は自信にあふれ、役を楽しむ余裕すら感じられた。中学年、高学年は、国語や音楽で学んだ和歌や俳句、詩、曲を題材に、言葉の意味を味わい、それを伝えるためにどう表現したらよいか工夫した。楽器の演奏を家で特訓したり、放課後に複数人で練習したりする姿もあった。伝統芸能「常磐獅子」は、篠笛を途切れずに響かせようと集中し、獅子や蝶の動きは、先輩が演じたビデオを参考に、主体的に意見を出し合い、息を合わせた。中学年、高学年ならではの質の高い目標を掲げ、努力し、学習発表会当日に成果を出し切る姿には、目を見張るものがあった。

また、目指す東っ子の④「人の立場を理解し、他を思いやる心を備える子」は、生活の随所に表れている。その一例として、十一月八・九日の修学旅行で、いくつかの素晴らしい場面に出会った。

まずは、奈良公園で東大寺に向かう途中でのこと。六年のAさんが、数歩脇にはみ出したので注視していると、落ちていたマスクを拾い、背負ったリュックから友達にごみ袋を取り出してもらって収めたのである。鹿がチケットやしおり等の紙を食べるのは望ましくないという聞いていたAさんは、不織布マスクが鹿に食べられてしまいう前にと、迷いのない行動であった。その他にも、バス酔いした友達を気遣い、寄り添ったり荷物を代わりに運んだりする子がいた。子供だけで初めて泊まったホテルを発つときには、五年生の山の学習で経験したように、「来た時よりも美しく」の精神で部屋を整えていた。そして、映画村では、班員の皆でベンチに掛けてアイスクリームを味わった後、Bさんがウエットティッシュを取り出し、ベンチを拭き始めた。すると、他の子もティッシュを取り出し、隣の汚れたベンチまできれいに拭いたのである。落ちていたごみを拾ってごみ箱に運ぶ子もいた。いずれも、これまでの家庭でのしつけと、学んできた公共心を社会で発揮した清々しい姿である。

清水寺から知恩院まで散策する途中、Cさんが「面白いですよ」と一枚の葉っぱを差し出してきて見ると、緑に赤、橙、黄、茶、微妙な色が混じっている。Cさんの顔を見返すところこり微笑んでいる。自然の神秘に目を止める感性が素敵だと感じた。そして、この一枚の葉のように、一人の子供の中にもいろいろな色、特長がある。子供の良いところを様々な場面で引き出し、伸ばしてやりたい。

